専門医の少ない腎臓内科で、地域医療と向き合う医師の矜持。

透析療法とは、腎機能が失われ、自分の腎臓の代わりに人工腎臓を使用する治療法だ。透析を必要とする患者は年々増加傾向にあり、中でも慢性腎不全の患者数はすでに日本国内だけでも1300万人を超えている。しかし、その治療を専門とする腎臓内科医は全国的にみても少数で、深刻な医師不足が露呈されている分野の一つだ。そんな中、腎不全増悪因子の研究をはじめ、多数の腎不全患者の治療に従事してきた佐々木クリニック院長の佐々木公一氏は、腎臓内科医のエキスパートとして地域の期待を一身に集めている。高齢化が進む大阪市で、希少な地域医療に励む一人の医師を追った。

大阪市鶴見区や城東区には腎臓内科の専門医が常駐する病院は他になく、佐々木クリニックはその重責を担う専門医療機関として地域に貢献してきた。同クリニックには透析治療を必要とする多くの患者が遠方からも足を運び、39台あるベッドはいつも満床状態だ。いかに医師不足が進み、専門医の必要性が高まっているかが、そうした状況からも伺える。

また、根本的な医師不足という背景もあることから、専門医ではない医師が腎臓内科の診察に当たるケースも多く、決して万全とは言えない医療環境が慢性化している。佐々木氏はこうした地域医療の課題に危機感を抱いている。

「専門医ではない医師が腎機能に関わる病気の診察に当たることは、時に治療のタイミングを誤ることにも繋がります。当クリニックでは専門医のいない基幹病院から患者の紹介を受けることもありますが、その時点で治療の遅れが生じ、既に合併症を患っているケースも少なくありません。私自身は腎不全患者への腎不全増悪因子の研究も行ってきましたから、一般内科では見つけにくい症状や合併症も早期に発見することができる。そうした専門性が我々の分野では必要不可欠だと感じています」。

腎不全患者は心血管障害などの合併症を患うケースも多いため、早期発見が好ましく、医師が提示する治療計画の重要性は極めて高い。

「全ての腎不全患者に透析治療が必要かと言えば、一概にそうとは言えません。例えば高齢者であれば、別の治療計画や選択肢を与えることもあるでしょう。透析治療で単に延命すれば良いということではなく、もっと人間味のある医療をすべきだと考えています」。佐々木氏が言うように、あらゆるリスクを配慮した中で、透析治療という一つの選択肢がある。しかし、肉体的にも精神的にも決して楽ではない治療であるため、負担も大きい。本人の意思や体力、家族の意向を尊重しながら治療計画を立てることが重要だ。

佐々木クリニックでは透析治療を行う上でさまざまな配慮がなされているが、その一部を紹介しよう。例えば透析時間は一般的に週3日、4時間の治療と定めている病院は少なくないが、そうした業界のルールには縛られず、患者一人ひとりに見合った透析時間を設けている。「保険適用の観点からみると、透析時間が長いほうが医療機関への保険点数の配当が高く、一般的には透析時間が長い方が長生きできるとされています。しかしこれは若年層も含めた判断基準で、本来は患者の年齢や程度に応じて治療時間を変えていかなければいけません」。

佐々木氏はそうした観点から、腎機能に応じた様々な透析治療の在り方を提案。これまで大阪市内でも例のなかった週2回透析や長時間透析のほか、夜間入眠中に行うオーバーナイト透析など、患者に合わせた治療を徹底している。そのほか、仕事をしながら透析治療を続ける患者にも配慮し、受付時間も夜10時まで延長。これまで通例とされてきた透析治療の常識を覆しながら、より患者目線に立った医療体制を整えた。

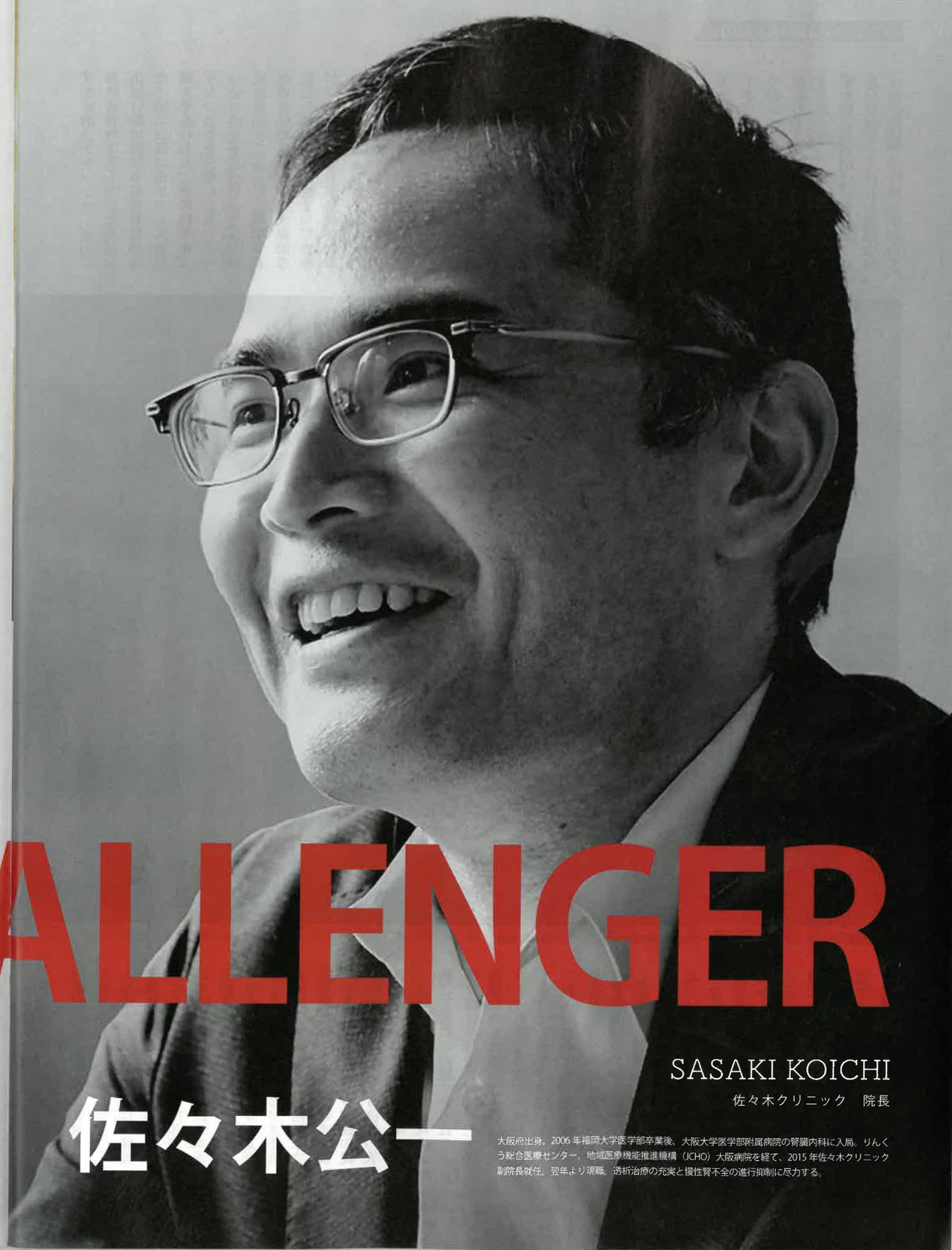
「正直なところ、常識に抗って理想の医療を追求することには経営リスクも負います。しかし、お金儲けを考えているだけでは、地域医療や高齢化医療の根本的な解決はできません。患者の皆さんに『元気に長生きしてもらいたい』という思いがあるからこそ、絶えず努力を続けていきたいと思っています」。

そうした医療の在り方が一つのモデルケースとなり、「後世を継ぐ若い医師たちに引き継がれていくことを望んでいる」と語る佐々木氏。そして業界全体の底上げを図っていくことが、今後の地域医療や高齢化医療に向けた重要な足がかりになっていくに違いない。

「若くして高い志のある医師ほど、大学病院などで研鑽を積もうとする方が多いのが実状。つまり地域医療には有能な医師が集まりづらい傾向にある。また、地域医療と言えば地方の過疎地ばかりに注目が集まりますが、人口密度の高い大阪市内にも、こうした医療過疎地は存在しています。一人でも多くの患者さんの助けになっていくためにも、若い医師たちがそうした地域医療の現状にも目を向けてほしいと思っています」。

人生100年時代に突入し、地域医療の在り方も問われている。今こそ、佐々木クリニックの挑戦から目が離せない。

佐々木クリニック　http://sasaki-cl.info/index.html



CHALLENGER

The Extra Edge
世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

佐々木公一

SASAKI KOICHI
佐々木クリニック　院長

大阪府出身。2006年福岡大学医学部卒業後、大阪大学医学部附属病院の腎臓内科に入局。りんくう総合医療センター、地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院を経て、2015年佐々木クリニック副院長就任。翌年より現職。透析治療の充実と慢性腎不全の進行抑制に尽力する。